

日本体育学会第 64 回大会（2013 年 8 月 28～30 日：立命館大学びわこ・くさつキャンパス）

口頭発表 要旨

日本バスケットボール史における遊戯性と 競技性に関する一考察（大正 13 年～昭和 5 年）

及川 佑介*

我が国に伝わったバスケットボールは、遊戯的なバスケットボール（明治 27 年～）と競技的なバスケットボール（明治 42 年～）に分けてみる事が出来る。遊戯的なバスケットボールは成瀬仁蔵が伝え、主に女学校で広がったといわれている。一方、競技的なバスケットボールは大森兵蔵が伝え、大正 6 年には、第 3 回極東選手権競技・東京芝浦大会でバスケットボール種目に日本代表チームが初出場している。その後、大正 13 年に全日本籠球学生連合が結成され、学校でのチーム数が増し、昭和 5 年には大日本バスケットボール協会が設立された。このように、大正 13 年から昭和 5 年にバスケットボール界は組織化されたことで、競技的なバスケットボールが急速に浸透していった。その裏では、遊戯的なバスケットボールの姿が薄れていく。そこで、本研究では日本バスケットボール史の競技化過程の一齣として大正 13 年から昭和 5 年において急速に組織化と競技化が進む中で、遊戯的なバスケットボールは如何に評価されたのかを明らかにする。

* 東京女子体育大学